

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



早いもので、今年もいよいよあと数週間となりました。

12月は、仕事も家事もやるべきことが多くて気忙しい反面、お楽しみもいっぱい、クリスマス・パーティーや忘年会など人の集まる機会が多い時季でもありますね。

年末年始に向けてどんな順番で用事を済ませていくのか？イメージしながら計画を進めていきましょう。

買い物リスト、ToDo リストを作成して、カレンダーに目標完了日をマークするのも良い方法です。

とはいえ、自分ができる範囲で計画し、無理をしないことも重要なポイントです。



折角のホリディシーズンを楽しむこともお忘れなく。

お忙しい年末、どうぞお元気で過ごしてください！！

失敗事例から学ぶ家づくり成功の秘けつ！（13）

新たなテーマとして、家づくりの際に注意すべき大切なポイントを書かせていただいています。ご参考になれば幸いです。

【窓を開けたら、お隣さんと鉢合わせ・・・】

完成したわが家の2階の窓を開けたら、お隣の2階で一生懸命勉強中のお子さんと至近距離で目が合ってしまった・・・それ以来、2階の窓のカーテンを開けたことがありません???



これはほんの一例ですが、完成前には想像もしていなかった様々なことが起こり得ます。

家づくりで最も重要な間取りについては、家族それぞれの希望やライフワークに基づき、念入りに確認する方が多いのですが、近隣にも配慮した窓の位置までを確認することは、ついつい忘れがちです。

何でもプロに任せておけば安心と思う方も多くいらっしゃるかもしれませんが、やはり実際に住む方々の生活をもう一度考えてみましょう。

窓の位置や高さはもちろん、コンセントの位置なども事前の打ち合わせの際に、しっかりチェックしておくことが大事です。ひとつひとつ確認していくことで、お施主さんと住宅会社の距離が縮まり、お互いの信頼感も育っていくものです。

窓を開けたら、入浴中のお隣さんの裸姿とバッタリ！！・・・こんなことが決して無いように、くれぐれもご注意くださいね。

友好的関係を長く続けるためには、近隣の方々への配慮はとても大切だと思います。

いざという時に頼りになるのは、遠方に住む親戚より、ご近所の手助けが有り難いものです。



次回に続く

「除夜の鐘（じょやのかね）」

除夜の鐘は、「大晦日（12月31日）の夜に撞かれる鐘」で、107回までを旧年中に、最後の1回は新年になってから鳴らすのが正式な決まりとされています。除夜の鐘を撞く理由は、人の心にある煩惱を追い払うためと言われています。

煩惱（ぼんのう）とは、人の心を惑わせ、悩ませたり苦しめたりする心の働きのこと。仏教では、人には百八つの煩惱があると考えられており、その煩惱を追い払うために撞く鐘は108回とされています。

又、四苦八苦が由来とされている説もあるそうです。

（「しく」は4×9、「はっく」は8×9で、その答えを足すと108になることから、四苦八苦を取り除くという意味）

静かな鐘の音に耳を傾けつつ、その年にあったことを思い浮かべ、新しい年が良い年でありますようにと祈りながら、心静かに年越しをしましょう。



幼い頃の思い出



毎年恒例の酉の市も既に終り、寒さと共に年末の訪れを実感する頃になりました。

この時季になると、1年を振り返り、様々なことが思い起こされますが、今回は友人から聞いた幼い頃の思い出のひとつをご紹介します。

昔々の話なのだけれど、私の隣の家におばあちゃんが住んでいたのね。

おばあちゃんは高齢で、ひとりではもうあまり動けなくて、長時間ずーっとベッドに座っていることが多かったの。

私のおばあちゃんじゃないのに、本当の孫のように可愛がってくれてね。

だから、私は毎日のようにおばあちゃんの家に行っては、一緒に折り紙を楽しんでいたの。

おばあちゃんは手先がとても器用だったから、いろいろ教えてくれたわ。

鶴・奴さん・ヨット・風船・兜・・・まるで手品みたいいろいろなものを作ってくれた。



私の折り紙が出来あがるたびに、おばあちゃんに、それをプレゼントすると、おばあちゃんは、それを全部、傍の棚に飾ってしてくれたみたい。

プレゼントをするたびに、おばあちゃんは、何度も「ありがとう」って笑いながら言うの。

それが、子供心にすごく嬉しかったことを今でも、忘れずに覚えているわ。

でも、私が高学年になるにつれておばあちゃんの家に行かなくなってしまった。だって友達と遊ぶ時間の方が楽しくなってしまったんだもの。

そんなある日、突然そのおばあちゃんが亡くなったという知らせが来たの。

子供ながらショックが大きかった。

最後に会ったのは2年ぐらいいも前だったから。

お葬式が終わって数日たった頃に、おばあちゃんと同居していたおじさんとおばさんが家に来たのね。そして、

「これ、家のばあちゃんが、ずっと作っていたの。あの子にあげるんだって」

差し出されたのは、おばあちゃんが一針一針丁寧に編んでくれたという毛糸の帽子とマフラーだった。おばあちゃんからの伝言で、折り紙のお礼だって。

「これから寒くなるから、風邪をひかないように暖たかくしてね」って。

もうそれを聞いた瞬間、涙が止まらなかったわ。

折り紙を、たくさん教えてもらったのは私の方だから、私が、おばあちゃんにお礼を言わなくちゃいけなかったのに・・・

ありがとう。



だから、今でもマフラーは大事に使っているよ。帽子は小さくなっちゃって、もう使えないけどね。

如何でしたか？

寒い季節になると、こんな温もりが嬉しいですね。

「編集後記」

新天皇ご即位の礼も無事に終わり、名実共に希望に満ちた新しい時代が始まりました。

「令和」には、人々が美しい心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められているそうですが、古来の伝統儀式を目の当たりにし、あらためて歴史の重さを実感しました。

又、今年は次々に大型台風が発生し、未だ辛い生活を強いられている被災地の皆さんのことを考えると胸が痛みます。師走の慌ただしい折、くれぐれもご自愛ください。

少し早いかもしれませんが、穏やかな新年をお迎えになりますよう、心よりお祈りいたします。

この1年ご愛読いただき有難うございました。

来年も引き続きお読みいただければ嬉しいです。



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者 渡辺 田鶴子